

設 立 趣 旨 書

2020年、新型コロナウイルスへの対策で「新しい生活様式」なるものが厚生労働省より出され、人との密集、密接を避け、距離を置いて生活しなければならなくなりました。このことで一番の我慢を強いられたのは、「子どものころ」だと思っています。

嬉しいときは人に抱きつきたい、頭を撫でられたい、
悲しいときは背中をさすってもらいたい、
ごはんはみんなでわいわい食べたい、友だちとじゃれあって思いっきり遊びたい、
子ども達の素直なところは、きっとそう思っているのではないのでしょうか…

また人は、そんな人のころとの出会い、ふれあいによって、成長していくものだと思います。

しかし社会はこの「新しい生活様式」を、人に移すからと子どもにも守らせました。
本当は人とくっつきたいのを我慢し、
おしゃべりしながらわいわい給食を食べたいのも我慢して、
いま彼らは生活をしています。文句を言うことも出来ず…

悲しいデータがあります。厚生労働省発表の2020年の日本の小中高生の自殺者は過去最多の440人。コロナでは2021年3月現在、日本で一人も亡くなっている子どもはいないのに…です。

今こそ、子どもたちのころをもっと大切にしなければならないのではないのでしょうか…

私たちは自主子ども会活動や子ども食堂、子どもキャンプなどを通して、たくさん子どもたちとふれあい、彼らの笑顔と成長を見てきました。
子ども達が、のびのび素直なところで人とふれあえる機会と居場所づくり。
このことが今、子どもたちにもっとも必要な事と、私たちは考えます。
さらに周りを取り巻く大人たちも、互いに思いやり協力しながら、共に子どもたちを育てていける社会力を、子どもとの関わり方と共に、学んでいく必要を強く感じます。

コロナ後のこれからは、私たちの活動とその目的を広く社会に知ってもらうこと、同じように感じている方とのネットワークを形成していくことが、より大切になっていくと思います。
そのためには私たちの活動が、社会的に健全で信頼できることが第一です。
特定非営利活動法人は、定期的な総会の実施や法令等で定められた書類の作成・提出、市民への情報公開等を適切に行うことで、健全な法人運営ができると考え、この度、特定非営利活動法人の設立を申請することとしました。

子どもと、子どもに関わる人々に対して、
人のころ、特に子どもの素直なころを大切に、ふれあう機会、居場所をつくる活動を行い、
健やかな成長と、社会力向上に貢献したいと思います。

令和3年 5月 9日

法人の名称 特定非営利活動法人 こども
設立代表者 山崎 聡